

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

ニュース・レター No.158

JSiSE

発行日 2009年1月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本 敏雄
〒533-0005
大阪市東淀川区瑞光3丁目3-25-101号
TEL06-6324-7767 FAX06-6324-7767
http://www.jsise.org/
E-mail : secretariat@jsise.org

- 教育システム情報学会のさらなる飛躍を願って -

岡本敏雄

電気通信大学大学院

本学会会長

e-Learning の世界動向と新しい e-Pedagogy の構築

1. 会員の皆様へ

年が明け、2009年度が本格的に活動し始めました。いつも申し上げることですが、学会という組織の重要なミッションは、学術的視点からの文化の創造にあるかと思えます。本学会のミッションは、教育という営みを情報・通信技術という手段を十分に発揮して、システムの視点で問題解決を図る学であると言えます。それが新しい教育のあり方や形態を創造する源になるかと思えます。折りしも、インターネット・Web テクノロジーが社会の隅々まで浸透し、学習の形態、労働の形態、人々の接触の形態、さらに価値の形態等が多様化してきました。そういった中で、学問のみならず、社会の発展・進歩に、何をどのように貢献できるかを考える必要があります。

もくじ

岡本会長のご挨拶	1~4	国際会議のご案内	12・13
2009年度第34回全国大会開催のご案内	4	2008年度第5回研究会の報告	14・15
2008年度第6回研究会プログラム	5~8	新入会員のご紹介	16
2008年度論文特集研究会プログラム	8~10	事務局よりお知らせ	16
英文誌論文募集のご案内	11		

2．日はまた沈み、また昇る

英国エコノミスト、Bill Emmott による、我が国の経済成長の潮流に関する見解は興味深いものがあります。競争、効率化、生産性に関して、政治的、歴史的、国際的視点で**日本型資本主義**を論じています。また、相愛大学の高橋乗宣氏は、日本経済が有するリスクを指摘しつつ世界の中での日本の必要性を論じています。最近の様々な経済動向に関する書物を読み解いていくと、我が国は次のような恒常的リスクまたは傾向を抱えているということです。

原油価格の上昇は続く	先送り体質	中国の石油あさりと海外からの投資（安い労働力）
ゼロ金利政策	プラザ合意に終焉	団塊世代の知・匠の継承
人口減少	債務とデフレ	日本の国際政治力の低下
格差社会	アメリカの双子の赤字	

前述の Bill Emmott 氏は、これらを解決するには、競争と効率化、生産性上昇が必要と論じています。また、日本経済は否応なしに、アメリカと中国の動向に影響されますが、この2つの国は遅かれ早かれ、手を結ぶであろうと言われています。

3．人材育成論の新しい視点

前述のマクロな視点を考慮して、我が国においてどのような人材育成（学校教育、産業教育問わず）が必要なのでしょうか。過去の人材育成論の時代背景を整理してみますと、

キャッチアップ時代の人材育成観（基礎・基本となる教科書的知識・技術の吸収、消費財コピー）

高度成長期の人材育成観（生産財獲得型知識・技術の吸収、重厚長大型産業技術育成）

もの造り時代の人材育成観（精度の高い生産財獲得型知識・技術、軽薄短小型産業技術育成）

大競争時代の人材育成観（資本財・流通財獲得型知識・技術の吸収、金融技術）

知恵造り時代の人材育成観（知財的視点から生産財・資本財・流通財の統合力、資本・技術の国際的連携）

に変化していると言えます。

知識社会への転換の意味は、工業社会で培われた物づくりの知恵や様々な発見・発明の知恵をさらに促進させ、付加価値を高め、その流通（すなわち教育）の仕組みにあります。科学・技術の展開は急速でかつ学ぶべき知識の量は膨大であり、学校教育の中で、教えることはますます限定されていくでしょう。それゆえ、知識の伝達から知識を作り出すための内容と学習手段がポイントとなります。さらに持続的（sustainable）な個人、組織、社会の学習支援基盤が重要となります。ここに本学会が果たすべき役割、責務があると言っても間違いありません。

4．我思う、故に我在り

これは、ルネ・デカルトが自著「方法序説」の中で提唱した有名な命題です。ラテン語で *cogito, ergo sum*、英語では、*~I think, therefore I am~*、です。

自分を含めた世界の全てが虚偽だとしても、真にそのように疑っている作用が確実であるならば、その意識しているところの我だけはその存在を疑い得ない。

これは、意識の「内部」の発見と位置付けることもできます。従来、内部に現われている観念（表象）と外部の实在が一致すると思われてきました。ところが、デカルトの方法的懐疑視点はまずこの一致の妥当性を疑うことから始まります。すなわち、**表象と实在は一致するのではなく、むしろ表象から实在を判断することは間違いを伴う、と考えるのです**。絶対確実なものとは、表象で直観されたものから实在に関する判断が直接に導かれる行為のことです。このようなものとは、実は「絶対確実なものを見付ける」という試みそのものを可能にする、「**私は考える**」という事実であったということです。これによって、意識の「内部」としての「考えるところの私」が確立し、そこに現われている観念と外部の实在との関係が、様々な形で問題に上るようになるというわけです。教育や人材育成論を論じるとき、「考えるところの私」

を意識させることがポイントになるというわけです。

何故、このフレーズを取り出したかと言いますと、情報通信技術の急速な進歩、発展、変化の中で、ついついそれらの応用に走って行きがちで、いったい全体、何を研究しているのかということをお問しなければならぬのではと反省するからです。特に教育という営みは、“人づくり”ですから、「考えるところの私」、すなわち自己 (self) の客体化能力を形成させることが重要でしょう。しかしながら、これは、教育哲学的問いかけですから、永遠の問題なのかもしれません。そんなことを夢想しながら、“教育システム情報学”を議論し、再度、体系化していって下さればと願うしだいです。

5 . e-Learning と人材育成

少し、現実的な話題に移したいと思います。さて、何故、e-Learningなのかということの問いかけです。

主なニーズは、教育観の変化も踏まえて、

- 従来の授業（講義）の補完、代替、統合
- 履修形態の変容（履修主義から習得主義）
- 評価形態の変容（定期試験「総括的評価」からプロセス型形成的評価）
- 教師主導から学習者主導
- 固定型カリキュラムから選択型カリキュラム
- 知識・技能習得から知識統合・構築（対話・実践的問題解決力）へ
- 受動から能動（自己責任、貢献、協調、尊敬、野心）
- 教科書中心から資料中心

等があります。

また、社会的ニーズとして、

- 雇用問題
- 学習離脱、落ちこぼれそして受験
- 確かな資格（グローバル・スタンダード）
- 自己開発と持続的な学習（知識社会における必然性とセーフティ・ネット）
- 学習財の共有化と再利用
- IT スキル・スタンダード
- 新しい産業創造
- 教育・学校改革
- 新技術開発・応用（ユビキタス技術と知能メディア等）
- 大学は如何にあるべきか（開かれた大学、連携・単位互換、国際化）

等が考えられます。

これらの新たな社会問題に対して、学会がどのような貢献ができるかも、議論する必要があります。

6 . 最後に

我が国の国際的ステイタスが、通貨の実力の低下に伴って、中流クラスに落ち込むであろうという予測があります。中東諸国、中南米諸国並みになるという予測です。中国、インド、ブラジル、ロシアなど、いわゆる BRICS 諸国に完全に追いつかれるという予測です。また、英国 B B C の調査において、世界 27 カ国の中で、わが国の世界における影響力は、急激に低下しているという結果が出ています。”Japan as No.1”という言葉は、全く過去のものとなったようです。米国議員は、既に日本を見限っているという話もあるようです。さらに、“ニート”問題、国際政治力、金融ファンドにおける戦略性の欠如、そして束縛だ

らけの自己抑止行動とそのメンタリティ(リスク回避的、他人任せ抑止)、辛抱・心棒の欠如と責任回避性、社会的幼児性等などの社会精神医学的問題もあります。このような問題は、人材育成論のみで議論されるものではありませんが、様々な教育組織の力強い教育力が再度、必要なように思います。

本学会が、“教育”、“情報”、“システム”といった統合された視点から、上記のような社会的問題意識に目を向けることも重要ではないかと感じる昨今です。

第34回 JSiSE全国大会のご案内

大会 HP が開設されました。

<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/jsise09/>



日程：

2009年8月19日(水)・20日(木)・21日(金)

開催場所：

名古屋大学東山キャンパス (〒464-8603 名古屋市千種区不老町)

問い合わせ先：

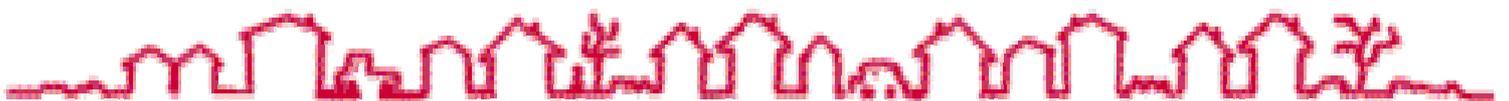
教育システム情報学会 第34回全国大会実行委員会 事務局

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院 情報科学研究科 渡邊研究室内

e-mail: jsise2009@watanabe.ss.is.nagoya-u.ac.jp

詳細につきましては、随時ご案内させていただきます。



2008 年度第 6 回研究会研究発表プログラム

テーマ： 大学の情報教育/一般

開催日 : 2009 年 3 月 14 日 (土)

開催場所 : 長崎大学 大学教育機能開発センター ・ 全学教育講義棟
〒852-8521 長崎市文教町 1-14 (文教キャンパス)

会場案内 : <http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/access.htm>

お問合せ先 : 松永公廣 (摂南大学) matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

藤井美知子 (長崎大学) fujii@redc.nagasaki-u.ac.jp

プ ロ グ ラ ム

9:30 ~ 9:55 受付

9:50 ~ 10:00 挨拶

A セッション 10:00 ~ 12:00 座長 西端律子 (畿央大学)

1. 学習支援機能付き Excel 練習問題を利用した授業の実践
藤井美知子 (長崎大学 大学教育機能開発センター),
中島信恵 (宇部フロンティア大学短期大学部), 二木映子 (宇部工業高等専門学校), 佐野繭美 (摂南大学),
松永公廣 (摂南大学)
2. ネットショップ制作演習のデザインと実践
佐野繭美 (摂南大学), 柳ケンキ (園田学園女子大学), 松永公廣 (摂南大学)
3. 高等教育での新たな情報教育
知念正剛 (福岡医療短期大学), 金崎信夫 (福岡歯科大学)
4. 電子メディアを併用したピアノ弾き歌い教育の実践と課題
中平勝子 (長岡技術科学大学), 赤羽美希 (深見友紀子ミュージックラボ), 深見友紀子 (京都女子大学)

B セッション 13:00 ~ 15:00 座長 中平勝子 (長岡技術科学大学)

1. 情報教育と専門教育との連動化について
金山茂雄 (拓殖大学), 小林政尚 (拓殖大学)
2. 体験を重視したマイコン組込みシステム教育の実践
片山滋友 (日本工業大学), 矢満田克樹 (日本工業大学), 小川孝治 (日本工業大学),
木下孝二 (日本工業大学)
3. 情報工学科学生に対するアルゴリズム的思考法教育手法の提案と実践
不破 泰 (信州大学大学院工学系研究科), 國宗 永佳 (信州大学), 香山 瑞恵 (信州大学),
新村 正明 (信州大学), 宮尾 秀俊 (信州大学)

4. 情報教育のための双方向型高大連携 - 連携ネットワーク構築 -

皆川雅章（札幌学院大学），石川千温（札幌学院大学），小池秀勝（札幌学院大学）
渡邊慎哉（札幌学院大学），中村永友（札幌学院大学）

C セッション 15:20~16:50 座長 不破 泰（信州大学大学院工学系研究科）

1. 情報リテラシー応用としてのインターネットTV放送
大矢野 潤（千葉商科大学）， 柏木 将宏（千葉商科大学）
2. プログラミング教育支援システムを用いたプログラミング入門教育の実践
新開純子（富山商船高専），宮地功（岡山理科大学）
3. LEGOロボットとゲーム課題を題材とする問題解決型のプログラミング演習
- プログラミング初心者への導入体験としての授業実践 -
加藤 聡（香川大学工学部）， 富永 浩之（香川大学工学部）

D セッション 10:00~12:00 座長 西野和典（九州工業大学）

1. 高精細映像を用いた同期式遠隔講義の高度化
~映像の撮影範囲変化による受講者の印象について~
國宗永佳（信州大学工学部），不破泰（信州大学大学院工学系研究科），香山瑞恵（信州大学工学部）
2. 2つの文書要約手法から得られる差分を用いたレポート推敲支援機構
熊谷陽（静岡大学），李曉永（静岡大学），松澤芳昭（静岡大学），太田剛（静岡大学）
酒井三四郎（静岡大学）
3. 教育指導支援システム「iPortfolioMaker」の開発
古賀掲維（長崎大学 教育機能開発センター），井ノ上憲司（長崎大学 大学教育機能開発センター）
坂井一也（長崎大学 大学機能開発センター），新田高士（長崎大学 大学教育機能開発センター）
飛永三奈（長崎大学 大学機能開発センター），直野公美（長崎大学 大学教育機能開発センター）
藤井美知子（長崎大学 大学教育機能開発センター），丹羽量久（長崎大学 大学教育機能開発センター）
4. ベンチャー企業内教育支援におけるクラウドコンピューティング活用の提案
松本 哲（京都大学 産官学連携センター 寄付研究部門）

E セッション 13:00~15:00 座長 林敏浩（香川大学）

1. Webを利用した情報技術を向上させるタイプ練習ソフトの開発
二木映子（宇部工業高等専門学校），恋河内敦（宇部工業高等専門学校），
中島信恵（宇部フロンティア大学短期大学部），藤井美知子（長崎大学）
2. ロールプレイングによる言葉かけ学習システムの開発
日隈健太（九州工業大学），山口真之介（九州工業大学），大西淑雅（九州工業大学），
西野和典（九州工業大学）
3. MPIを対象とした並列処理プログラミング学習環境の検討
渡辺健太（九州工業大学）， 山口真之介（九州工業大学）， 大西淑雅（九州工業大学）
西野和典（九州工業大学）
4. ユビキタスな史跡学習システムの開発
藤井諭（松江工業高等専門学校）， 景山久義（松江工業高等専門学校）
永塚学（松江工業高等専門学校）， 島孝浩（松江工業高等専門学校）

F セッション 15:20~16:50 座長 藤井美知子(長崎大学 大学教育機能開発センター)

1. プログラミング課題のレポート提出を支援するオンラインストレージWebBinderの開発
上田 和志(香川大学工学部), 富永 浩之(香川大学工学部)
2. WikiとMoodleの連携による学習支援システムの構築
河野 稔(兵庫大学)
3. 高等学校教科「情報」のWebリメディアル学習システム
山口偉史(九州工業大学), 山口真之介(九州工業大学), 大西淑雅(九州工業大学),
西野和典(九州工業大学)

G セッション 10:00~12:00 座長 宮地 功(岡山理科大学)

1. D-P方式によるプレゼンテーション教育方法
村上 和繁(大阪電気通信大学大学院), 大隅 敏明(大阪電気通信大学大学院)
正木 幸子(大阪商業大学), 下倉 雅行(大阪経済大学), 竹嶋 徳明(大阪国際大学非常勤)
中村 民明(tami情報教育研究所), 岡本 久仁子(大阪国際大学非常勤)
荒木 俊輔(龍谷大学付属平安高等学校), 岩崎 重剛(やる気教育研究所)
石桁 正士(大阪電気通信大学名誉教授), 松永 公廣(摂南大学), 横山 宏(大阪電気通信大学)
2. 大学教育における科目デザインの外化(1) - シートベースによるデザイン手法 -
横山 宏(大阪電気通信大学), 大隅 敏明(大阪電気通信大学大学院)
村上 和繁(大阪電気通信大学大学院), 宇治典貞(東洋学園), 田端 矢一郎(常磐会学園大学),
岩崎 重剛(やる気教育研究所), 石桁 正士(大阪電気通信大学名誉教授), 松永 公廣(摂南大学)
3. 大学教育における科目デザインの外化(2) - シラバスベースとシートベースを比較して -
大隅 敏明(大阪電気通信大学大学院), 村上 和繁(大阪電気通信大学大学院),
宇治典貞(東洋学園), 田端 矢一郎(常磐会学園大学), 岩崎 重剛(やる気教育研究所),
石桁 正士(大阪電気通信大学名誉教授), 松永 公廣(摂南大学), 横山 宏(大阪電気通信大学)
4. モンタージュ効果をねらった映像作品における視聴者の時系列的感性変化の調査
- SD法とERICAシステムを用いた手法の比較 -
浅羽 修丈(北九州市立大学 基盤教育センター), 斐品 正照(東京国際大学)

H セッション 13:00~15:30 座長 横山 宏(大阪電気通信大学)

1. 協調学習支援システムを用いたグループ学習における理解度変化の分析
二宮利江(電気通信大学大学院), 岡本敏雄(電気通信大学大学院)
2. 統計的パターン認識の可視化を用いた個別化教育のための評価法
小柏 香穂理(山口大学大学院医学系研究科), 浜本 義彦(山口大学大学院医学系研究科)
米田 晴彦(山口大学大学院医学系研究科), 室川 和也(山口大学大学院医学系研究科)
3. 授業開始前における情報教育に関するアンケートとソフトの実利用技能の関係
藤井美知子(長崎大学 大学教育機能開発センター), 丹羽量久(長崎大学 大学教育機能開発センター)
直野公美(長崎大学 大学教育機能開発センター), 井ノ上憲司(長崎大学 大学教育機能開発センター)
古賀掲維(長崎大学 大学教育機能開発センター)

4. 教養科目「情報」における学生の情報リテラシー獲得履歴について

丹羽量久（長崎大学 大学教育機能開発センター），藤井美知子（長崎大学 大学教育機能開発センター）
直野公美（長崎大学 大学教育機能開発センター），井ノ上憲司（長崎大学 大学教育機能開発センター）
古賀掲維（長崎大学 大学教育機能開発センター）

5. テキストマイニングを活用した授業理解度判定のためのアンケートの検討

直野公美（長崎大学 大学教育機能開発センター），藤井美知子（長崎大学 大学教育機能開発センター）
丹羽量久（長崎大学 大学教育機能開発センター），井ノ上憲司（長崎大学 大学教育機能開発センター）
古賀掲維（長崎大学 大学教育機能開発センター）

第1会場	A	B	C
第2会場	D	E	F
第3会場	G	H	



テーマ : - eラーニング環境のデザインと実践運用 -

開催日 : 2009年3月14日(土)

開催場所: 長崎大学 大学教育機能開発センター・全学教育講義棟

〒852-8521 長崎市文教町1-14(文教キャンパス)

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/access.html>

お問合せ先: 松居辰則(早稲田大学) matsui-t@waseda.jp

小西達裕(静岡大学) konishi@cs.inf.shizuoka.ac.jp

本研究会は「eラーニング環境のデザインと実践運用」をテーマにした特集論文(2010年1月発刊号)に向けた特集研究会です。

発表時間は1件につき40分(発表20分, 質疑応答・コメント20分)です。

発表番号の後に(コメント無)とある発表は, 1件につき25分(発表20分, 質疑応答5分)です。

本研究会では研究会委員が分担して, ご提出いただきました研究会原稿を読ませていただき, 発表時に論文執筆に役に立つコメントを提供させていただきます。このコメントを参考にいただき, 特集論文にご投稿いただきたいと考えております。多くの方々のご参加をお待ちしております。

プログラム

発表会場は3か所(A会場, B会場, C会場)あります。会場の教室番号は当日に連絡を致します。

9:30~ 受付

9:50~10:00 挨拶・特集研究会の主旨説明
(A会場)

A会場

A1 セッション 10:00~12:00

- A1 . 活動理論にもとづいた問題分析型課題の効果
大島律子・湯浅且敏・大島純・村田大輔(静岡大学), 榊原涼太(静岡大学大学院),
石山拓・宮浦智範(日立インフォメーションアカデミー)
- A2 . 表象手段のシナジー効果を期待した e-Learning コンテンツの構成法
永田奈央美・岡本敏雄(電気通信大学大学院)
- A3 . 持続可能性を意識した eラーニング教材の整備と運用
山川広人・小形淳・今井順一・小松川浩(千歳科学技術大学)

A2 セッション 13:00~15:00

- A4 . SCORM CD Maker: ネットワーク環境に依存しない SCORM 2004 教材配布システム
田中頼人(慶應義塾大学)
- A5 . 拡張性を有する学習支援システムのためのオブジェクト指向アーキテクチャの提案
仲林清・森本容介・葉田善章(メディア教育開発センター)
- A6 . 数式入力解答方式によるクイズを含む SCORM 対応学習コンテンツ開発の試み
久保田真一郎(熊本大学)

A3 セッション 15:20~17:20

- A7 . 自動採点ツールを評価システムとする情報教育の質保証と高大連携への展開
石川千温・皆川雅章・渡邊愼哉・中村永友・小池秀勝(札幌学院大学)
- A8 . 教育学習支援情報システムにおける授業支援型ユーザインターフェイス
植木泰博(関西大学先端科学技術推進機構), 冬木正彦(関西大学環境都市工学部)
- A9 . GPS 携帯電話を用いた過去体験型学習システムにおける教師支援機能の開発と評価
辻本裕紀・垂水浩幸(香川大学), 大黒孝文(神戸大学), 楠房子(多摩美術大学),
稲垣成哲(神戸大学), 竹中真希子(大分大学), 林敏浩(香川大学), 矢野雅彦(富士通四国システム)

B会場

B1 セッション 10:00~12:00

- B1 . 社会人遠隔学習者に対する eラーニングを用いた質保証の実践と評価
今井美香・不破泰・山下純矢・國宗永佳・新村正明(信州大学大学院)
- B2 . 議論練習クラスに仕掛ける e-Learning システム
村上学・竹内謙・本田宏隆・野澤肇・佐藤喜一郎(東京理科大学)
- B3 . 少人数実験クラスにおけるポータブルゲーム機を用いた e-Learning システムの開発と運用
竹内謙・村上学(東京理科大学), 加藤淳(PHD), 秋山龍一(室蘭工業大学),
本田宏隆・野澤肇・佐藤喜一郎(東京理科大学)

B2 セッション 13:00~15:00

- B4 . 全学的 e-Education 普及と実践の取り組み
小林政尚(拓殖大学)
- B5 . 教育支援システム「In Assistant (アイアシスタント)」の開発と全学的導入
江本理恵・後藤尚人(岩手大学)
- B6 . 茨城大学における eラーニングの活用
- 「確かな学力の向上を目指す理系基礎教育」への取り組みを中心に -
竹内俊彦・曾我日出夫・千葉康生・榊原暢久・岡裕和・吉田宏二(茨城大学)

B3 セッション 15:20~16:40

- B7 . 多読促進を目的としたコミュニティシステムの開発と運用
佐藤太紀(信州大学), 若杉朋範・五月女雄一(信州大学大学院), Mark Brierley・國宗永佳・
新村正明(信州大学), 不破泰(信州大学大学院)
- B8 . 複数の教育支援システムの相互利用とシステム間の情報共有を実現する教育基盤
五月女雄一(信州大学大学院), 鈴木彦文・新村正明(信州大学)

C会場

C1 セッション 10:00~12:10

- C1 . 東北大学インターネットスクールにおけるeラーニング支援 (副題) 医学系研究科支援の実践より
為川雄二・熊井正之・渡部信一(東北大学大学院)
- C2 . 教科書テキストを用いた専門用語学習用eラーニングシステムの開発
孫一・大月一弘・柏木治美・康敏(神戸大学大学院)
- C3 (コメント無). 教学支援機能を持つSNSの開発
吉崎弘一(園田学園女子大学)
- C4 (コメント無). 学習者間相互作用の促進を目的とした参加型学習支援システム
安間文彦・永井暁人・岡本敏雄(電気通信大学大学院)

2008年度 研究会開催予定

開催日時	テーマ	会場	担当
第6回研究会 2009年3月14日(土)	大学の情報教育 / 一般	長崎大学	松永, 西野, 西端

2009年度 研究会開催予定

開催日時	テーマ	会場	担当
第1回研究会 5月16日(土)	教育・学習支援におけるSNSの利活用 / 一般	電気通信大学	平嶋, 柏原 小尻, 曾我
第2回研究会 7月頃	検討中	北海道大学 (予定)	不破, 小松川 野崎, 布施
第3回研究会 10月頃	検討中	静岡大学	米澤, 林 伊東, 小西
第4回研究会 11月中の金曜日	eラーニング環境のデザインとHRD / 一般	早稲田大学 (新宿)	仲林, 石打 松居, 北村
第5回研究会 2010年1月22日(金)予定	モバイル&ユビキタスラーニングと新しいユーザ・ エクスペリエンス / 一般	東北大学 (宮城県仙台)	佐々木, 永森 三石
第6回研究会 2010年3月13日(土)予定	生涯教育と情報教育	畿央大学 (奈良)	松永, 西野 西端



教育システム情報学会 英文誌 論文募集

(Vol.8, No.1, 2009年12月発行予定)

教育システム情報学会では、2002年度から年1回定期的に英文誌を発行しています。これまでに発行してきました英文誌は、質・量ともに「教育とコミュニケーション技術」に関する世界レベルの内容となりました。このたび、Vol.8に掲載する論文を募集いたします。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思っております。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

論文種別

原著論文(Original Paper)、実践論文(Practical Paper)、
ショートノート(Short Note)、実践速報(Report on Practice)

投稿締切

2009年5月16日(投稿は随時受け付けていますが、この期日までにご投稿いただいたものに関しては、Vol.8, No.1への掲載対象となります)

投稿要件

- 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- 寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用されます。寄稿者が2名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも1名が会員であれば、投稿料に会員価格が適用されます。

原稿執筆要領

英文論文誌もしくは下記の URL を参照してください
http://www.jsise.org/e_journal/ejournal.html

投稿方法 電子投稿システムを利用して投稿を行ってください。

- 下記 URL より電子投稿用 Web ページにアクセスしてください。
http://www.jsise.org/e_journal/ejournal.html
- 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行ってください。
- 投稿論文は印刷イメージに近い書式で PDF ファイルとして作成し、アップロードしてください。

問い合わせ先 メールにてお問い合わせください

教育システム情報学会編集事務局

株式会社国際文献印刷社内

教育システム情報学会 編集事務局 担当：長澤

住所：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

TEL：03 (5389) 6492 FAX：03 (3368) 2827

メールアドレス：jsise-edit@bunken.co.jp



国際会議のご案内

国際会議のご案内は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介や、インターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、ご連絡ください。

また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

再掲情報：4 件

● HCI International 2009: The 13th International Conference on Human-Computer Interaction

>開催期間：2009年7月19日-24日

>開催地：San Diego, USA

>URL：<http://www.hcii2009.org/>

>論文投稿スケジュール:

Paper: 20 Oct. 2008, アブストラクト締切り

Poster: 23 Feb. 2009, アブストラクト締切り

● IJCAI-09: Twenty-first International Joint Conference on Artificial Intelligence

>開催期間：July 11-17, 2009

>開催地：Pasadena, California

>URL：<http://ijcai-09.org/>

>論文投稿スケジュール:

Electronic abstract submission: January 7, 2009 (11:59PM, PST)

Electronic paper submission: January 12, 2009 (11:59PM, PST)

Workshop paper submission: March 6, 2009 (11:59PM, PST)

Author notification of acceptance/rejection: March 31, 2009

Camera-ready copy due: April 14, 2009 (11:59PM, PDT)

● UMAP 2009: First and Seventeenth International Conference on User Modeling, Adaptation, and Personalization

>開催期間：22-26 June, 2009

>開催地：Trento, Italy

>URL：<http://umap09.fbk.eu/>

>論文投稿スケジュール:

Workshop and Tutorial Proposals: November 24th, 2008

Research Papers: January 19th, 2009 (abstracts: January 12th)

Industry Papers: January 30th, 2009

Doctoral Consortium Papers: March 23rd, 2009

Demonstration Descriptions: March 23rd, 2009

●m-ICTE2009: V International Conference on Multimedia and ICT in Education

>開催期間 : 22-24 April 2009

>開催地 : Lisbon, Portugal

>URL : <http://www.formatex.org/micte2009>

>論文投稿スケジュール:

Abstracts submission deadline: 27 January 2009

Deadline for submission of full papers considered for publication in the Proceedings Book: 17 March 2009

新着情報 : 3 件

●ASEE 2009: 2009 Northeast American Society of Engineering Education Conference

>開催期間 : April 3-4, 2009

>開催地 : Bridgeport, CT, USA

>URL : <http://www.asee2009online.org>

>論文投稿スケジュール:

Abstracts due: February 27, 2009

Abstract acceptance notification: March 6, 2009

Final manuscript & Registration due: March 20, 2009

●E-Learn 2009: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education

>開催期間 : October 26-30, 2009

>開催地 : Vancouver, BC Canada

>URL : <http://www.aace.org/conf/elearn/>

>論文投稿スケジュール:

Submissions Due: April 29, 2009

Authors Notified: May 29, 2009

Proceedings File Due: Sept. 25, 2009

●ICCE 2009: The 17th International Conference on Computers in Education

>開催期間 : November 30 to December 4, 2009

>開催地 : Hong Kong

>URL : <http://www.icce2009.ied.edu.hk/>

>論文投稿スケジュール:

May 4, 2009: Conference Papers

May 4, 2009: Workshop Proposals

June 30, 2009: Workshop Papers, Tutorial Proposals, Doctoral Student Consortium Papers, Panel

Proposals Interactive Sessions Proposals

July 31, 2009: Open Forum Proposals



2008年度 第5回研究会 開催ご報告

テーマ:新しいデバイスと教育システム/一般

担当:研究会委員 佐々木整/三石大/永森正仁

2009年1月23日(金)に、「新しいデバイスと教育システム/一般」をテーマに、八王子学園都市大学の講座(公開講座)との共催として八王子学園都市センターを会場とし、2008年度第5回研究会を開催いたしました。

今回の研究会では、計22件の発表があり、iPodやiPhone、Android、SunSPOT、Nintendo DSやPlayStation Portableなどの様々な新しいデバイスの活用や、これらのデバイスと連携したSNSの活用など、先進的なシステム開発やその実践の報告のほか、実用指向の興味深い試みが数多く紹介され、また各研究の発表時には、発表者と聴衆者との間で活発な議論が交わされるなど、大変有意義な研究会となりました。

また今回の研究会は、八王子市が運営する八王子学園都市大学の公開講座として、八王子を中心とした多摩地区の市民に広く公開する形で開催しており、今回で3年目となります。これにより、参加者54名のうち非会員の参加者が35名であるなど、本学会の活動を外部にPRする効果も多分にあったものと思われます。

最後に、ご発表を頂いた皆様、熱心なご議論に参加頂いた方々、ならびに研究会のPR等々本研究会を支えて頂きましたご関係者様に、この場を借りて御礼申し上げます。

開催日:2009年1月23日(金)

会場:八王子学園都市センター

1. 教育用ハプティックインタフェースの一検討

戸田 健, 梅原 祐士, 山崎 恒樹(日本大学)

2. 小学校中学年での情報リテラシー教育の実践について

黒田 勉(香川大学), 大嶋 和彦, 高橋 正人(香川大学教育学部附属高松小学校)

3. 任意背景によるPCデスクトップクロマキーシステムの開発と教育への応用

板宮 朋基, 田川 京太郎, 中野 亜希人(慶應義塾大学), 千代倉 弘明(東京工科大学)

4. 適時の知識確認方法としてクリッカー等を用いた授業

青野 透, 鎌田 康裕(金沢大学)

5. 授業観察アノテーションシステムFD Commonsを利用したFD活動支援

加藤 由香里, 江木 啓訓, 塚原 渉, 寶理 翔太郎, 寺田 達也, 中川 正樹(東京農工大学)

6. 授業観察アノテーションシステムFD Commonsの設計と開発

寶理 翔太郎, 加藤 由香里, 江木 啓訓, 塚原 渉, 寺田 達也, 中川 正樹(東京農工大学)

7. ホームネットワーク技術を用いた手書き入力による対面授業支援システムの構築

葉田 善章, 篠原 正典(独立行政法人メディア教育開発センター)

8. PCモバイル統合動画共有環境における注釈機能による学習者コミュニティの形成について

福原 美三(慶應義塾大学), 松村 太郎(キャストリア株)

9. e-ラーニングと誤り同定について

奥田 富蔵, 及川 義道, 井上 靖(東海大学)

10. ユビキタス学習環境の構築を支援するツール「InterCussion」(インターカッション)の開発と実践

松本 健司, 上原 利数, 宮川 傳法(株式会社エスシーシー)

11. 創造教育へのユビキタスラーニングの導入

富田 雅史, 森 幸男(サレジオ工業高等専門学校)

12. A Ubiquitous Adaptive Discussion System for Learners

趙 新有, 岡本 敏雄(電気通信大学)

13. 3D 加速度センサーによるジェスチャー表現を用いた教育向け検索システムの開発,
およびテニス動画データベースへの応用

石原 克哉, 金子 洋平, 鷹野 孝典, 佐賀 亮介, 宮崎 剛(神奈川工科大学)

14. IC タグを用いた実動作を伴う外国語学習支援システム

柏木治美(神戸大学), 薛燕(コベルコシステム(株)), 孫一, 孫荻, 康敏, 大月一弘(神戸大学)

15. ランニング集団をリアルタイムに支援するシステムの開発

松浦 健二, 後藤 田中, 鍋島 豊晶, 平野 卓次, 井上 将彰, 金西 計英, 矢野 米雄(徳島大学)

16. 携帯型ゲーム機を用いた学習支援システムの開発

安居 昌哉, 牧田 裕喜, 佐々木 整, 前山 利幸, 木原 幸一郎, 工藤 芳彰(拓殖大学)

17. 携帯型ゲーム機を用いての実践的総合キャリア教育

中野 健秀, 朝倉 洋子, 井上 市郎, 大久保 正明(大阪国際大学)

18. 看護教育における臨地実習用ユビキタス学習環境の構築と評価

真嶋 由貴恵, 中村 裕美子, 前川 泰子(大阪府立大学)

19. クリッカーと SNS を用いた学習動機づけを高める実習授業の構築

末本 哲雄, 鎌田 康裕, 瀬川 忍, 松本 豊司(金沢大学)

20. 縄跳びを例とした身体スキル開発用 SNS 支援環境の設計と開発

鍋島 豊晶, 後藤田 中, 松浦 健二, 金西 計英, 矢野 米雄(徳島大学)

21. 移動型情報携帯端末を利用した漢字教育支援

清水 英典(玉川大学学術研究所)

22. Android を利用した関連情報視覚化ツールの開発

牧田 裕喜, 齋藤 謙太, 佐々木 整(拓殖大学)

研究報告のお求めは

研究報告のバックナンバーを購入ご希望の方は、(株)毎日学術フォーラムまでお申し込みください。

1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

株式会社 毎日学術フォーラム

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル2階

TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

e-mail maf-sales@mycom.co.jp

URL <http://maf.mycom.co.jp>

なお、JSiSE 会員の方で「研究報告」の年間購読をご希望の方は事務局までご連絡ください

JSiSE事務局

TEL 06-6324-7767

E-mail secretariat@jsise.org

年間購読料 4,000円

年6回発行 (送料込)

*この際に、ぜひ年間購読されますようおすすめいたします。(教育システム情報学会 研究会委員会委員長/竹内 章)

新入会員の紹介

新入会員 (敬称略)

2009.1.28 現在

会員番号	氏名	所属機関	推薦者	会員種別
JSiSE-A0802831	梶田将司	名古屋大学	小尻智子	正会員
JSiSE-A0802832	杉沢一美	共愛学園前橋国際大学		正会員
JSiSE-A0802833	村本 充	苫小牧工業高等専門学校		正会員
JSiSE-A0802834	山川広人	千歳科学技術大学	小松川浩	正会員
JSiSE-A0802835	長谷川聡	名古屋文理大学	山住富也	正会員
JSiSE-A0802836	松尾太加志	北九州市立大学		正会員
JSiSE-A0802837	戸井英晃	国立大学法人 信州大学		準会員
JSiSE-A0802838	天野憲樹	岡山大学		正会員
JSiSE-A0802839	阿部清彦	関東学院大学		正会員
JSiSE-A0802840	松本章代	青山学院大学		正会員
JSiSE-A0802841	神澤篤啓	東京工業大学大学院		準会員
JSiSE-A0802842	代田貴信	グローバルナレッジネットワーク 株式会社		正会員
JSiSE-A0802843	菊地 章	鳴門教育大学大学院		正会員
JSiSE-A0802844	大谷尚史	静岡大学		準会員
JSiSE-A0802845	小林政尚	拓殖大学		正会員
JSiSE-A0802846	増田美由起	太田市立薮塚本町中学校		正会員
JSiSE-A0802847	谷内正裕	慶應義塾大学大学院		準会員

所属先のご変更・郵送物送付先のご変更等

ご登録いただいております内容にご変更がありましたら、随時事務局まで、ご連絡くださいますようお願い致します。

教育システム情報学会事務局

〒533-0005

大阪市東淀川区瑞光 3-3-25 パティオ白川 101 号

TEL/FAX:06-6324-7767 E-mail:secretariat@jsise.org



2008年度年会費のご納付いただけていない学会員様は、早急にご入金頂きますようお願い致します。

ご質問・ご不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

ご参考までに年会費をお知らせいたします。

正会員：7,000円 準会員：4,000円

企業・団体会員：50,000円

研究報告年間購読：4,000円 入会金：1,000円(入会時のみ)